



はじめに

今後、人口減少の更なる進行や人生100年時代と言われる長寿化の中で、Society5.0の実現が提唱されるなど、さらに大きな社会の変化が訪れようとしています。

中央教育審議会の答申「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」（平成30年12月21日）では、人口減少や、コミュニティの衰退を受けて、住民参画による地域づくりがこれまで以上に求められる中、社会教育を基盤とした人づくり・つながりづくり・地域づくりの重要性は地方行政全体を通じてますます大きくなっていると示されています。

これからの地域社会においては、生き生きとした地域コミュニティを形成するために、学びの場において、地域が直面する様々な課題解決に向けた住民相互のつながりや、住民の主体的な活動を活発化させることが大変重要であると考えています。

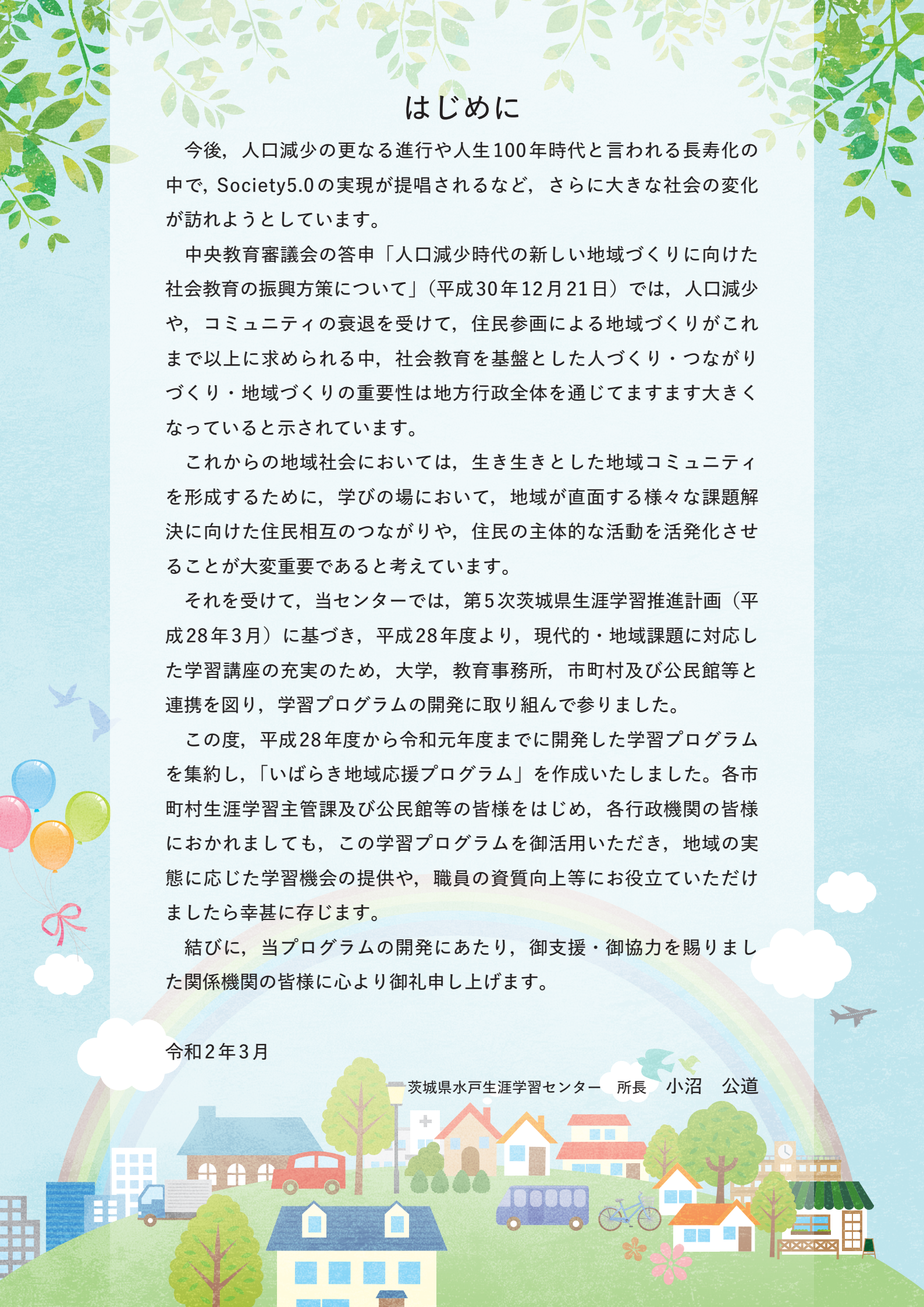
それを受けて、当センターでは、第5次茨城県生涯学習推進計画（平成28年3月）に基づき、平成28年度より、現代的・地域課題に対応した学習講座の充実のため、大学、教育事務所、市町村及び公民館等と連携を図り、学習プログラムの開発に取り組んで参りました。

この度、平成28年度から令和元年度までに開発した学習プログラムを集約し、「いばらき地域応援プログラム」を作成いたしました。各市町村生涯学習主管課及び公民館等の皆様をはじめ、各行政機関の皆様におかれましても、この学習プログラムを御活用いただき、地域の実態に応じた学習機会の提供や、職員の資質向上等にお役立ていただければ幸いです。

結びに、当プログラムの開発にあたり、御支援・御協力を賜りました関係機関の皆様にご心より御礼申し上げます。

令和2年3月

茨城県水戸生涯学習センター 所長 小沼 公道





目次

I 「いばらき地域応援プログラム」について

① 学習プログラムのねらい	1
② 学習プログラムの必要性	2
③ 学習プログラムの活用にあたって	4

II 学習プログラム

① 親力アップを目指す家庭教育学級 ～一人でも多くの保護者に届けるために～	7
② 中学生の力を地域に活かす ～ジュニアリーダーの育成を目指して～	9
③ 地域のニーズに応える総合的な企画力のアップ ～企画の立て方, ミーティングの進め方, 情報発信の仕方のコツ～	11
④ 発達障害を理解し, できることを考えよう	13
⑤ 地域の本気が子どもを育てる ～地域と共にある学校づくり～	15
⑥ 高齢者も子どもも生き生きと! 体験活動をとoshた地域のつながりづくり	17
コラム ちょっと気になる言葉の解説	19

III Q&A こんなときどうするの?

① 企画をする上で大事なことは何ですか?	23
② 講座のアレンジはどうすればいいですか?	25
③ どうすれば人が集まりますか?	26
④ 講師の依頼はどうすればいいですか?	26
⑤ 実施した講座の満足度などは, どのように捉えればいいですか?	27

「いばらき地域応援プログラム」 について

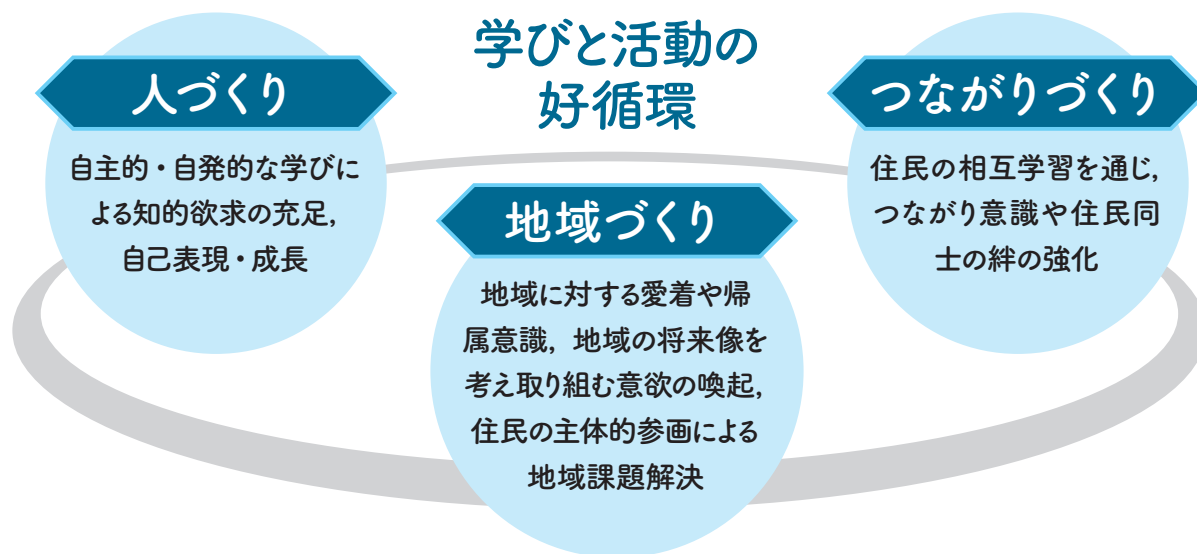
1 学習プログラムのねらい

(1) 中央教育審議会答申より▼

平成30年12月21日に出された「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」において、社会教育を通じた「人づくり」や「つながりづくり」は、地域を活性化し、住民が主体的に課題を発見し共有し解決していく持続的な「地域づくり」につながっていく意義を持つものであること、学びの成果を地域の活動の中で積極的に生かすことは、持続可能な学びと活動の循環につながっていくことが示されています。

人生100年時代を迎え、家族や学校、仕事に加え、地域での生きがいある活動に世代を問わず参加することは、一人一人の人生をより充実したものとする上で大きな意義を持つと考えられます。

社会教育：個人の成長と地域社会の発展の双方に重要な意義と役割



「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について（答申）概要」平成30年12月21日中央教育審議会より

(2) 第5次茨城県生涯学習推進計画（平成28年3月策定）より▼

平成28年3月に策定した第5次茨城県生涯学習推進計画において、「人口減少や超高齢化の進展は、地域社会において様々な影響を及ぼすことが懸念されており、その中で生じる地域課題を解決するためには、多くの人が共に学び、学び合いの中で豊かな人間関係を築き、協働して課題解決に取り組むことが重要である。」と示されています。

また、生涯学習を推進する人づくり・多様な学びの充実に向けての主な施策の一つとして、調査研究・学習プログラム開発・普及事業を挙げています。

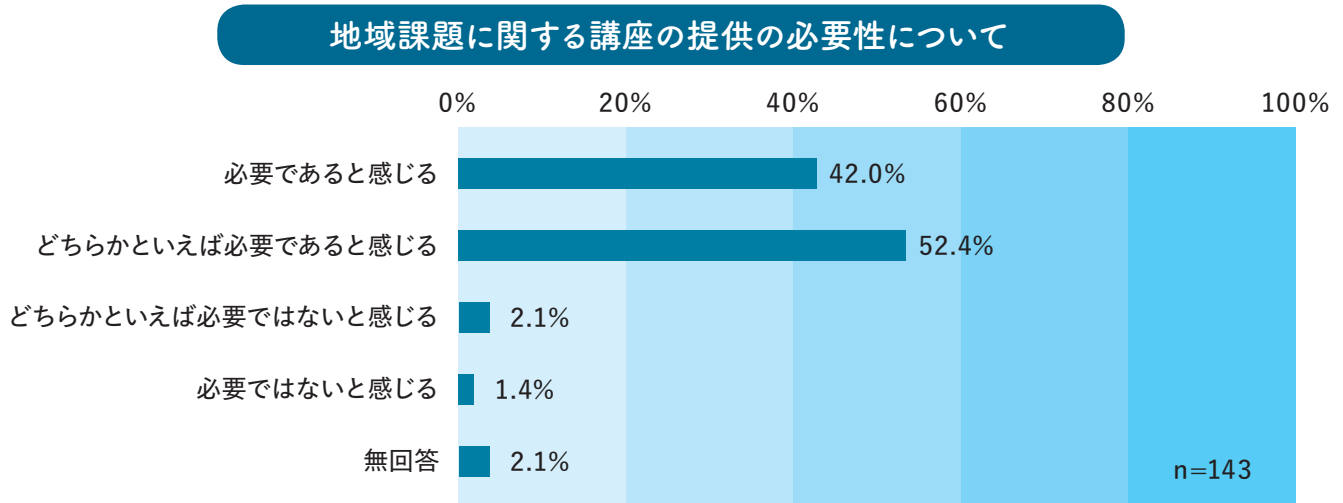
上記のことから、県域の生涯学習の現状を調査研究するとともに、平成28年度より4年間、様々な現代的・地域課題を解決させるための効果的な学習プログラムを開発し、「地域応援プログラム」として市町村等への普及を図ることをねらいとしています。

2 学習プログラムの必要性

令和元年8月、各市町村生涯学習・社会教育主管課と公民館等を対象に、「現代的・地域課題に対応した学習プログラムの開発と普及に関する調査」を実施し、144箇所（市町村34箇所、公民館等110箇所）から回答を得た結果は以下のとおりです。

(1) 地域課題に関する講座の提供の必要性について▼

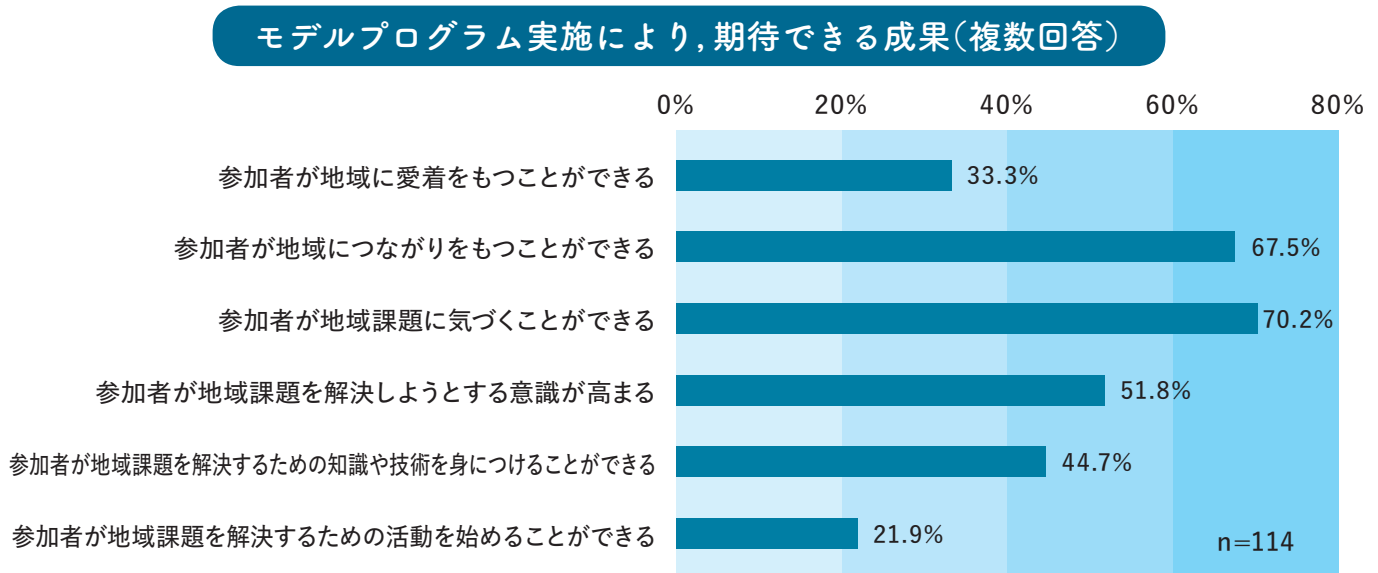
○全体の約95%の職員が「どちらかといえば必要であると感じる」、「必要であると感じる」と回答しています。



【図1 地域課題に関する講座の提供の必要性について】

(2) モデルプログラム実施により、期待できる成果について▼

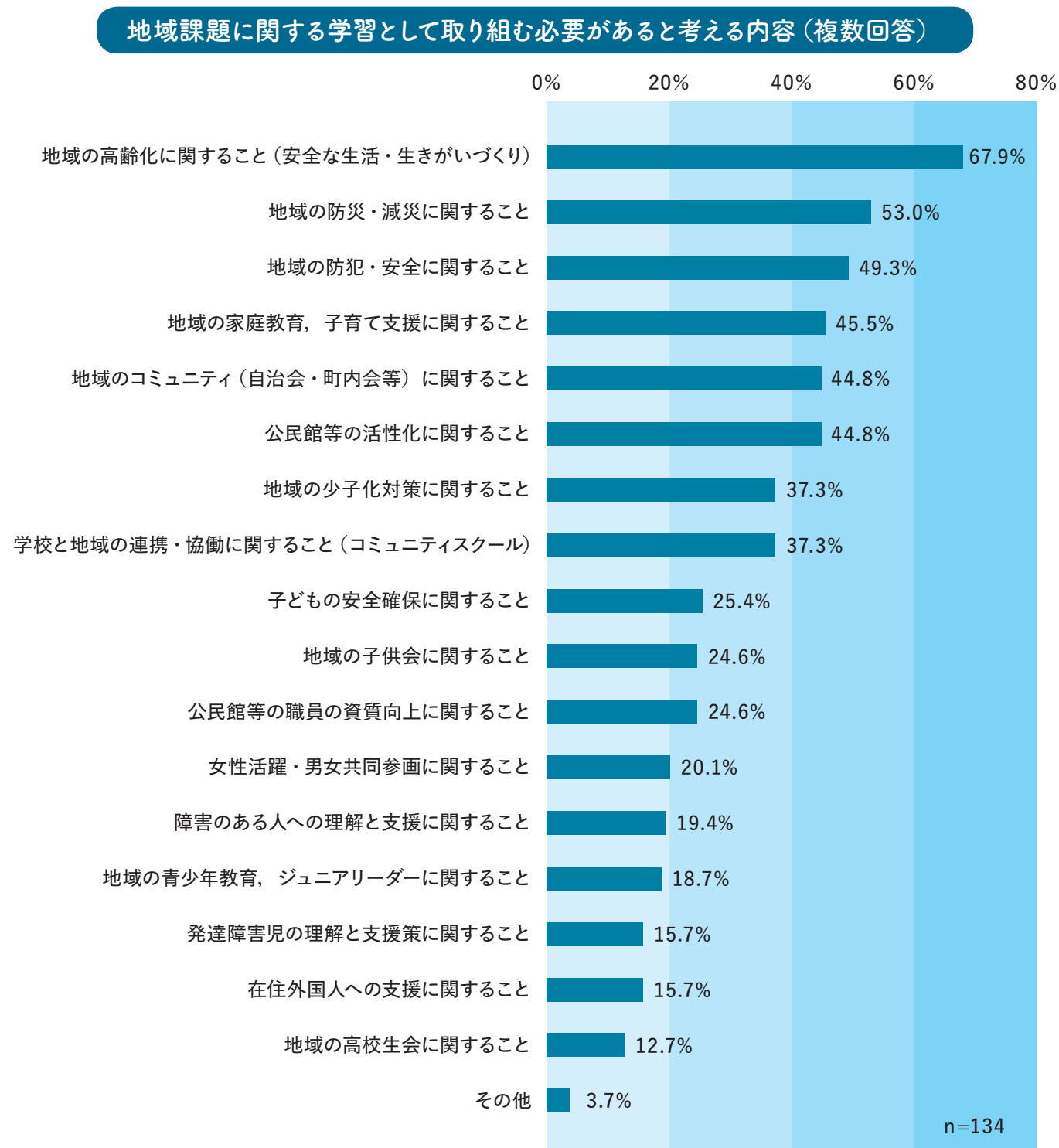
○「参加者が地域課題に気づくことができる」、「参加者が地域につながりをもつことができる」等の成果が期待されているという回答が多いことが分かります。



【図2 モデルプログラム実施により、期待される効果】

(3) 地域課題に関する学習として取り組む必要があると考える内容について▼

○「地域の高齢化に関すること（安全な生活・生きがいづくり）」、「地域の防災・減災に関すること」、「地域の防犯・安全に関すること」等が上位に挙げられています。



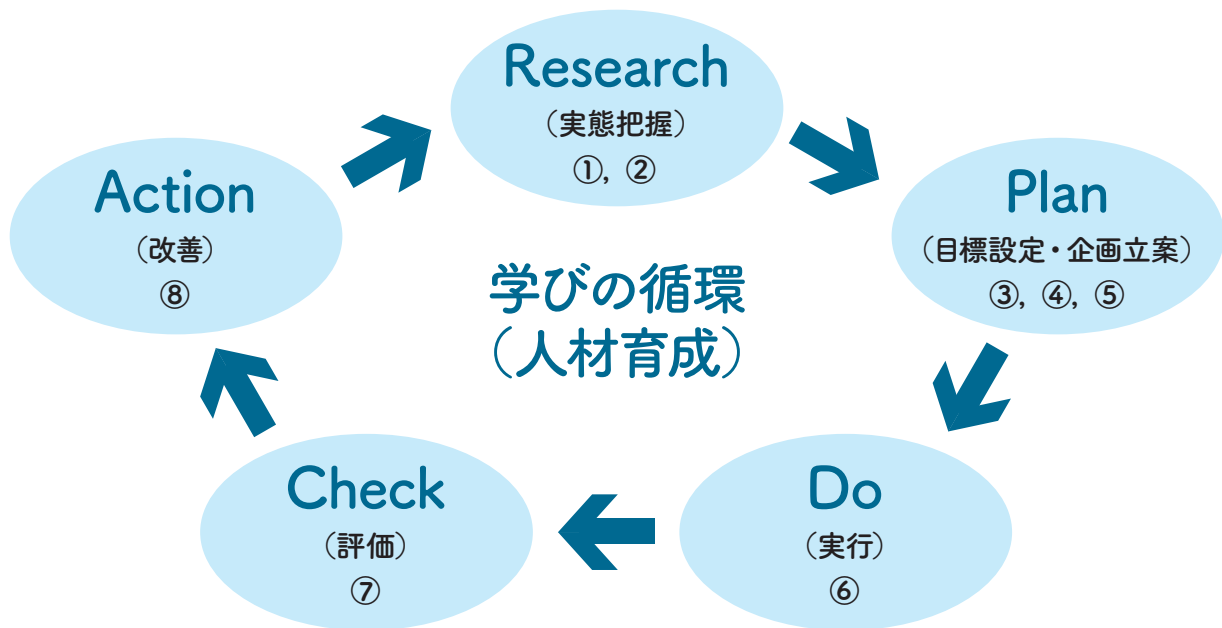
【図3 地域課題に関する学習として取り組む必要があると考える内容】

このようなことから，それぞれの課題に対応した効果的な学習プログラムを開発するとともに，各市町村及び公民館等において，地域の実態に応じた学習プログラムを実施し，地域住民への意識啓発やつながりづくりを図っていくことが望まれます。

3 学習プログラムの活用にあたって

(1) 学習プログラム活用の基本的な考え方▼

事業（講座）を実施する場合には、必ずRPDCAサイクルを意識して実施してみましょう。特に、事前の実態把握と、事後の分析と改善が大切になります。



事業（講座）を実施する流れのポイント

Research（実態把握）

- ① 地域の実態から課題をとらえる
- ② 地域住民のニーズを考える



地域の課題と住民のニーズを考慮し、見通し（回数・内容）を立て、できることから積み上げていきましょう。

Plan（目標設定）

- ③ 講座の内容を考える
- ④ 講師を依頼する
- ⑤ 参加者を集める工夫をする



企画・講師依頼・広報について、困ったときには、水戸生涯学習センターに相談してみましょう。

Do（実行）

- ⑥ 講座を実施する

Check（評価）

- ⑦ 成果と課題を分析する



総合的に評価し、今後の方向性を考えましょう。

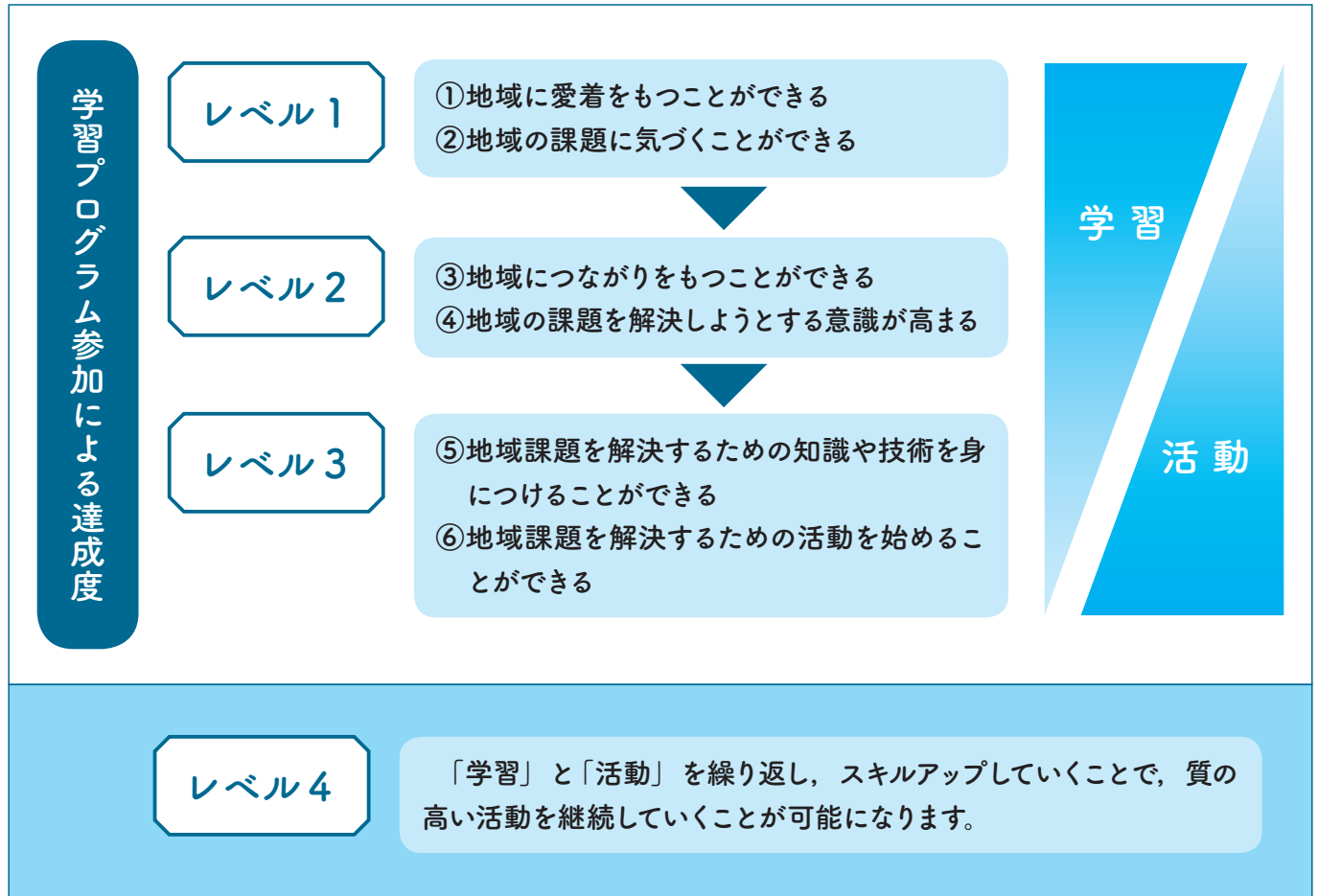
- ・ 効率性（コスト改善）
- ・ 妥当性（対象・手段）
- ・ 成果（意図した成果）
- ・ 満足度（参加者の反応）

Action（改善）

- ⑧ 次に必要な学びを考える

(2) 学習プログラムの活用による人材育成を目指して▼

事業（講座）の運営を考えるうえで、学習と活動を繰り返しながら、地域のリーダーが育っていくこと（人材育成）も心に留めて計画を立案していきましょう。



○学習の成果を地域活動の中で活かすことは！

人の役に立つという喜びを感じる → 積極的に地域の活動に参画しようとする熱意がわく → 更なる、課題解決のために新たな学びを求める
 という意識の変化と共に、持続的な学びと活動の循環につながっていきます。

※同様の事業（講座）を受講していても、個人の経験やキャリア等によって、その講座に期待するものや、達成レベルは異なりますので、日頃からの観察や聞き取りも大切です。（単に講座運営をするのではなく、講座全体の把握が必要になります）

その他の企画を考える時には

平成27年度 調査研究・プログラム開発 講座企画ハンドブック「つくる・とどける・ふりかえる やってみよう講座企画」を参照しましょう。

（茨城県生涯学習情報提供システム「茨城の生涯学習」ポータルサイトトップページの「調査・報告書」のコンテンツより、ダウンロードすることができます。）

学習プログラム

II

プログラム名		テーマ					
		公民館等 活性化	家庭教育	学校支援	青少年 教育	現代的 地域課題	市町村 職員支援
①	親力アップを目指す家庭教育学級 ～一人でも多くの保護者に届けるた めに～	○	◎				
②	中学生の力を地域に活かす ～ジュニアリーダーの育成を目指し て～	○			◎		
③	地域のニーズに応える総合的な企画力 のアップ ～企画の立て方, ミーティングの進め方, 情報発信の仕方のコツ～	○					◎
④	発達障害を理解し, できることを考 えよう		○			◎	
⑤	地域の本気が子どもを育てる ～地域と共にある学校づくり～			◎	○		
⑥	高齢者も子どもも生き生きと! 体験活動をととした地域のつながり づくり				○	◎	



親力アップを目指す家庭教育学級 ～一人でも多くの保護者に届けるために～

1 現状と課題

- 地域の学習の場である公民館では、公民館へ足を運んでもらえるように、地域住民が参加しやすい講座（人気のある講座）を実施している。
- 学校単位で家庭教育学級を実施しても、保護者の参加率が低い。
- 公民館等では、家庭教育支援に関わる保護者向け講座や活動の実施が少ない。

2 期待される効果

- 公民館において家庭教育に関する講座を実施することにより、公民館を利用することのない年齢層を呼び込むことができる。

3 モデルプログラム

(1) 目的

公民館を中心とした家庭教育支援体制の充実を図るとともに、子育てに関わる支援の輪を広げる。

(2) 対象者

子育てに関心がある方、保護者、児童

(3) 計画

【親子講座】

回数	学習内容・活動	学習形態	時間	講師等
1	親子の絆を深めよう！ ～野外炊さん、プロジェクトアドベンチャーの活動から見つけよう～	体験活動	5.5時間	プロジェクトアドベンチャー指導者、 野外炊さん指導者

【保護者向け講座】

回数	学習内容・活動	学習形態	時間	講師等
1	世界に一つだけのアクセサリを作しましょう ・アクセサリ製作 ・子育て支援（コミュニケーションの取り方）	創作活動 ワークショップ	2.5時間	鍛金作家、 家庭教育ファシリテーター
2	今、聴いておかないと、きっと後悔するスマホの話	講話 ワークショップ	2時間	メディアリテラシー講師
3	子育てがもっと楽しくなる魔法の方法 （子どもへの言葉遣い、接し方）	講話	2.5時間	臨床心理士、 スクールカウンセラー
4	自らを信じる「力」	講話 ワークショップ	1時間	メディアリテラシー講師、 人権教育講師
5	童心に返って遊びましょう ～子どもとのコミュニケーションUP をめざして！～	ワークショップ （インプロ※1）ワーク、 音読	3時間	臨床心理士、 スクールカウンセラー

実施にあたって（工夫点、注意点）

- ★実態に応じて、必要なプログラムを組み合わせ活用することができます。
- ★夏季休業日等の子ども向け講座に合わせて保護者向け講座を実施すると効果的です。
参加者増を目指すために、保護者が参加しやすい環境を整えるとよいでしょう。

(4) 展開例

第5回「童心に返って遊びましょう～子どもとのコミュニケーションUPをめざして！～」

学習のねらい

インプロワーク、音読など身体を動かす活動を通して、子育ての悩みを「楽しみ」に変えけるとともに、コミュニケーション力の向上を図る。

時間	学習の流れ	留意点	準備物
15分	【導入】 テーマ 「童心に返って遊びましょう～子どもとのコミュニケーションUPをめざして！～」 ○アイスブレイクを行う。 ・見守る者の存在について	・対話力＝雑談力となるよう配慮する。 ・子どもが小さかった頃に伝えた言葉や自分が子どもの時にかけてもらった言葉について考えてもらう。	・ホワイトボード
65分	【ワークショップ】 ○インプロワークを行う。 ・拍手まわし ・何でもバスケット ・ワンワード ・リフレーミング など  〈インプロワークショップ〉	* ポイント * インプロワークを展開しながら、子育ての悩みを楽しみに変える具体策を考えられるようにしましょう。 ・コミュニケーションの基本 →身体を動かす→身体に触れる一連のプロセスを実施していく。 * ポイント * 感情を言葉に表現することがストレスの耐性をつけることにつながることを理解できるよう配慮しましょう。	・おもちゃ ・本 ・カルタ ・キーボード
20分	(休憩)		
45分	○身体を動かしながら音読する。 ・絵本の読み聞かせ ・ことわざカルタ	・読書と体験をいかに深めていくかが大切であることを伝えていく。	
25分	○身体を動かしながら歌う。	・キーボードを使って、気軽に歌えるように配慮する。	
10分	【振り返り】 ○事後の感想を共有する。 ○役割が人を育てることについて ・手伝いのすすめ ・生き抜く力	・集まる機会として「Caféづくり」等を提案する。	

中学生の力を地域に活かす ～ジュニアリーダーの育成を目指して～

1 現状と課題

- 中学生は部活動があり、休日でも地域の行事に参加することが難しい。
- 青少年、特に中学生が中心となって企画・運営をする事業や講座について、公民館等における取り組み事例が少ない。

2 期待される効果

- 中学生が自分たちで考えたアイデアによる企画であるため、主体的に活動できる能力が身に付く。
- 中学生が企画をととして多くの人とふれ合うことにより、地域を知ることができるとともに、コミュニケーション能力の高まりやリーダーシップの発揮などの資質向上が期待できる。

3 モデルプログラム

(1) 目的

公民館・市民センター等において、中学生がリーダーとなり、企画・運営していく学習プログラムを開発・提供することで、生きる力を高めるとともに、地域と関わるきっかけづくりとする。また、青少年の教育活動に係る事業の実施に向けて、公民館・市民センター等の職員の資質の向上を図る。

(2) 対象者

中学生
(希望者)

(3) 計画

事前準備	・中学生が活動できる事業の洗い出し（フェスティバル，イベント等） ・中学生を勧誘するチラシを作成 ・中学校を訪問して，チラシを配付，参加の依頼 ・市高校生会担当課と連携を図り，協力を依頼			公民館・市民センター等 担当者
回数	学習内容・活動	学習形態	時間	講師等
1	○プロジェクト会議① ・参加者顔合わせ ・事業内容の説明 ・今後の日程 等	会議 (研修)	2 時間	・青少年健全育成指導者 ・市高校生会担当課 ・高校生会 ・公民館・市民センター等職員 等
2	○プロジェクト会議②③ ・ブースで実施したいアイデアの洗い出し，協議 ・サンプル品の作成 ・当日の役割分担 等	会議 (企画)	2 時間	
3			2 時間	
4	○プロジェクト会議④⑤ ・フェスティバルのチラシ配付（小学校 等） ・事前準備 ・リハーサル 等	会議 (準備・運営)	2 時間	・公民館・市民センター等職員 ・高校生会 等
5			2 時間	
6	○生涯学習フェスティバルにおいてブース運営	実践	3 時間	

実施にあたって（工夫点、注意点）

- ★プロジェクト会議の基本的な企画・準備・運営は中学生が行います（高校生からアドバイスをもらいます）。活躍の場を提供することで、一人一人の意識を高めていきます。
- ★部活動の在り方の変化によって、土日どちらかが休みとなることが多くなっています。休日を活用して、活動することができます。
- ★日程等に関して、前年度のうちに計画を立て、学校と連携・調整していく必要があります。
- ★公民館・市民センター等は職員が少ないため、過度な負担がかからないように、配慮しましょう。

(4) 展開例

第2回「プロジェクト会議②」

学習のねらい

フェスティバルで実施する企画について協議することで、中学生が当事者意識をもって、意欲的に活動していくことができるようにする。

時間	学習の流れ	留意点	準備物
20分	【導入】 ○フェスティバルのブースで実施する内容のアイデアを出し合う。	*ポイント* ・アイデアを自由に出し合えるように、雰囲気づくりをしましょう。 ・ホワイトボードを使って、出されたアイデアを可視化しましょう。	・中学生勧誘用のチラシ ・ホワイトボード
80分	【協議】 ○出されたアイデアについて話し合う。 ○ブースで実施する企画を決定する。 	・可視化されたアイデアから、自主的に進められる企画、フェスティバルにふさわしい企画かどうかを中心に話し合う（高校生からアドバイスをもらいながら行う）。 〈引き出したい考え〉 自分たちの力でできることは何か。	・付箋 ・ペン
20分	【まとめ】 ○振り返り ・次回のプロジェクト会議に向けて	・次回の会議内容について確認する。 サンプル品の作成 当日の役割分担 フェスティバルのチラシの配付先や配付方法	

地域のニーズに応える総合的な企画力のアップ ～企画の立て方, ミーティングの進め方, 情報発信の仕方のコツ～

1 現状と課題

- 公民館・市民センター等は、少人数の職員で運営しており、専門の職員は少なく、研修を受けられる機会も限られている。
- 人材が限られていることから、企画・運営等に広がりが見られず、事業がマンネリ化してしまうことが多い。

2 期待される効果

- 講座で学んだことを「事業やイベントの企画づくり」、「チラシ・ポスターづくり」、「会議や話し合い」等に活用でき、現場で即活用できる。
- 公民館・市民センター等が活性化し、施設運営の充実が期待できる。

3 モデルプログラム

(1) 目的

公民館・市民センター等が地域住民や行政組織の他部署と連携するため、職員の総合的な企画力の向上を図る。

(2) 対象者

公民館・市民センター等職員

(3) 計画

回数	学習内容・活動	学習形態	時間	講師等
1	魅力的な講座づくり	講話 グループワーク	2.5時間	専門的な知識や資格を有している者
2	情報発信力のブラッシュアップ (チラシづくりのポイント)	講話 グループワーク	2.5時間	
3	ファシリテーション入門・ホップ編 ～「みんなが主役」の場をつくる～	講話 グループワーク	2.5時間	専門的な知識や資格を有している者
4	ファシリテーション入門・ステップ編 ～会議・ミーティングの進め方～	講話 グループワーク	2.5時間	
5	ファシリテーション入門・ジャンプ編 ～企画の立て方・動かし方～	講話 グループワーク	2.5時間	

実施にあたって（工夫点、注意点）

- ★1～2回と3～5回の二部構成になっているので、どちらか一方を選ぶこともできます。また、受講者のニーズに合わせ、回数や時間をアレンジすることも可能です。
- ★スキルの定着と、さらなるスキルアップを図ることができるよう、講座受講と実践を継続的に実施すると、より高い効果が期待できます。
- ★公民館・市民センター等の職員数が少ない場合は、複数の市町村による合同開催や、受講対象を「市町村職員」全体に広げるなどの工夫をすることもできます。

(4) 展開例

第1回～第2回 魅力的な講座づくり、情報発信力のブラッシュアップ

学習のねらい

企画力・広報力向上のポイントを学び、実践に結びつける。

時間	学習の流れ	留意点	準備物
第1回	魅力的な講座づくり		
45分	【講話】 ○人の集まらない講座の原因を知る。 ・失敗事例から改善ポイントを導く。	・失敗事例から、人が集まらない講座の原因は、「企画力」と「広報・PR力」の不足であることに気づくようにする。	・配付資料
60分	【ワークショップ】 「企画力向上ワーク」 ○5つのチラシを見比べ、魅力的なチラシの要素を見つける。 	・各グループから出た意見を「企画」「広報」の分野に分け、ホワイトボードに記録していくと整理されやすい。	・ホワイトボード
45分	【講話】 ○「企画力」と「広報力」向上のためにやるべきこと 【振り返り】 ・事業企画のポイントが分かったか。	・ポイントとして、 ①対象者を限定すること ②タイトルにこだわること ③ゴールを示すこと を押さえたい。	・アンケート用紙
第2回	情報発信力のブラッシュアップ		
100分	【ワークショップ】 「企画会議とチラシ作成」 ①模擬反省会 「事例チラシ」の改善点を洗い出す。 ②ニーズのある企画に変え、チラシ（ポスター）を作成し直す。 ③他グループと共有する。 	* ポイント * ・第1回での学びを活かし、検討・作成するよう意識してもらいましょう。	・「事例チラシ」（集客少の事業） ・模造紙 ・水性ペン
40分	【講話】 ○手にとってもらえるチラシ作りのポイントとは何かをまとめる。	＜引き出したい考え＞ ・対象者に合った人の心をとらえやすい言葉、デザイン ・認知率の低い言葉はタイトルに使用しない ・イラストを有効活用 ・タイトルは紙面の上部3分の1が勝負 ・対象者に合った広報媒体、申込方法を活用	・アンケート用紙
10分	【振り返り】 ・自分の事業に活かすことができそうか振り返る。		

発達障害を理解し、できることを考えよう

1 現状と課題

- 近年、子どもたち一人一人の個性を尊重し、自主性・自立性を育む中で、子どもたちと関わる機会の多い方々が自閉症スペクトラム等の発達障害について理解を深め、その子の特性にあった接し方を必要性が高まっている。
- 学校の教員等は研修を受ける機会が多いが、それ以外の子どもたちと直接関わっている方を対象とした発達障害に関する研修を受ける機会は少ない。

2 期待される効果

- 市町村主催の活動の指導者、青少年相談員、民生委員、児童委員等だけでなく、自分の子どもの対応に迷っている保護者の参加を得ることができる。
- 発達障害のある子どもをもつ保護者、関わる者同士のつながりができる。
- グループワークによる情報交換をととして、互いの不安感を減少させることができる。

3 モデルプログラム

(1) 目的

子どもたちと直接関わる機会が多い方々が発達障害について基本的な知識を身につけ、子どもたち一人一人に対して適切な関わり方ができるようにする。

(2) 対象者

発達障害のある子どもと関わる在住・在勤者

(3) 計画

回数	学習内容・活動	学習形態	時間	講師等
1	発達障害とは 「こんな子どもに出会ったことはありませんか？」	講話	2 時間	専門的な知識や資格を有している者、大学教授等
2	発達障害のある人への支援 その 1 ～幼児期・学童期を中心に～	講話 グループワーク	2 時間	
3	発達障害のある人への支援 その 2 ～思春期を中心に～	講話 グループワーク	2 時間	

実施にあたって（工夫点、注意点）

- ★必要な講座のみ実施することができます。また、1 回の講座の時間を 3 時間とし、回数を 2 回にして同様の内容を確保することができます。
- ★一般の方も参加できるように休日に実施しましたが、スポーツ少年団等の指導者については、多くの団体が午前中に活動しているため参加が難しいようです。開催時間を工夫するとよいでしょう。
- ★グループワークを取り入れた講座内容であるため、参加人数が限られてしまいます。希望者が全員参加できるような会場で実施することについても考えてみるとよいでしょう。

(4) 展開例

第3回「発達障害のある人への支援その2～思春期を中心に～」

学習のねらい

思春期の発達障害の特性を理解し、それに対処するプログラムやスキルを学び、個に応じた適切な関わり方を身に付ける。

時間	学習の流れ	留意点	準備物
45分	【講話】 ○発達障害のある子どもたちの思春期の主な特性について （学校、家庭、地域などで起こる具体的事例より） ○療育プログラムについて ・作業に取り組むスキル ・仲間とつながるスキル ・相手の気持ちに配慮しながら自己主張するスキル 等	*ポイント* 特性から生じる具体的な困り感をいくつかの事例から理解していくようにしましょう。	・配付資料
45分	【ワークショップ】 ○当事者への支援として、どのような工夫やどのように接することが必要であるかを考える。	*ポイント* 発達障害のある方に接するときは、相手を良く理解して、その相手に合った支援を行うことが大切であることをおさえましょう。	・付箋紙 ・模造紙 ・ペン
30分	【講話・まとめ】 ○就労に関すること ・障害者差別解消法(※2) ・就労時の対応 ・支援方法の例 ・雇用にあたっての配慮 等 ○人間関係をよりよくするマッサージ法 ・顔や首、体をほぐす 等  〈落ち着かせるマッサージ〉	・将来を見据え、就労について必要な知識を学べるようにする。 ・言葉かけだけでなく、身体をほぐすマッサージなどをとおして、信頼関係をつくるきっかけとなることを知ることができるようにする。	・マット

地域の本気が子どもを育てる ～地域と共にある学校づくり～

1 現状と課題

- 各市町村教育委員会の取り組みにより、徐々に学校運営協議会が設置されてきていることから、これまで以上に、地域と学校の連携・協働を図る必要がある。
- 地域の自治会や子供会等の形骸化が見られ、地域住民が地域で子どもたちを育てていくという意識が低くなってきている。

2 期待される効果

- 学校運営協議会で話し合ったことを土台としたワークショップを行うことで、自分たちの地域でできることを深めたり広げたりすることができ、当事者意識の醸成とネットワーク作りのきっかけとなる。

3 モデルプログラム

(1) 目的

学校と地域が育てたい子ども像を共有し、一体となって子どもたちの豊かな成長を支える活動に取り組むことをとおして、地域社会全体で子どもを育てる意識の醸成を図る。

(2) 対象者

中学校区の教職員（保育所・幼稚園・認定こども園、小・中学校）、保護者、5, 6年児童（希望者）、学校運営協議会委員、地域住民・団体等

(3) 計画

回数	学習内容・活動	学習形態	時間	講師等	対象
1	小中学校運営協議会 ・学校運営協議会(※4)の役割 ・地域で目指す子ども像について	会議 (研修)	2時間	主任社会教育 主事	学校運営協議会委員
2	学校と地域をつなぐ研修会 「目指す子ども像の実現に向けて 地域でできること」	会議	2時間		教職員、保護者、 学校運営協議会 委員、地域住民
3	野外宿泊体験活動 ・段ボールハウス作り ・ドラム缶風呂、流しそうめん等	体験活動	2日	地域おこし協 力隊、高校生 会、消防分団	児童、PTA父親委員 会、地域住民等
4	活動報告（掲示物）	自由見学 ※授業参観時	2時間		児童、保護者

実施にあたって（工夫点、注意点）

- ★学校と地域が「目指す子ども像」の考えを共有することで、同じ意識を持って子どもたちの健全育成に取り組むことができます。
- ★体験活動は、地域の実態に応じた内容で実施することが望ましいです。
- ★体験活動や研修会に、より多くの地域住民や団体に参加してもらうために、広報の仕方などを検討する必要があります。

(4) 展開例

第2回「学校と地域をつなぐ研修会」

学習のねらい

学校と地域が目指す子ども像の意見を共有することで、一体となって子どもたちの豊かな成長を支えていこうとする意識の醸成を図る。

時間	学習の流れ	留意点	準備物
15分	【導入】 テーマ ○学校運営協議会会長の話を聞く。 ・運営協議会の活動と今後の取り組みについて ○ウォーミングアップを行う。 ・アイスブレイク 等 ○ワークショップの約束について確認する。	・ワークショップのグループの構成メンバーは、地域側と学校側の参加者をバランスよく構成する。 ・ワークショップは、多様な意見が出るように自由な雰囲気で行う。 *ポイント* ワークショップのルール（発言や考えを否定しないなど）を活かして、ねらいとなる話し合いを進めましょう。	
80分	【ワークショップ】 テーマ 「〇〇な子どもを育てるために学区で今後やりたいこと・できそうなこと」 （安全や学習支援など、分野を分けながら模造紙にまとめ、できそうなことを具体的に話し合う。）  ワークショップの様子	・事前（第1回）の運営協議会で出された「地域で目指す子ども像」をもとに今後の取組について話し合う。 〈引き出したい意見〉 地域住民が多く参加でき、ネットワークが広がりそうな活動は何か。	・付箋 ・ペン ・模造紙
25分	【まとめ・振り返り】 ○各グループの発表を聞き、全体で共有する。	・出されたアイディアを運営協議会で検討し、実施していく。	

※地域学校協働活動，学校運営協議会等については，文部科学省「地域学校協働活動 地域と学校でつくる学びの未来」参照

※4 P21 ( 参照)

高齢者も子どもも生き生きと！ 体験活動をととした地域のつながりづくり

1 現状と課題

- 全県的に人口減及び少子・高齢化が進んでいる。
- 地域の担い手の確保が難しい。

2 期待される効果

- 三世代と一緒に体験活動を行うプログラムをととして、子どもたちの郷土愛や生きる力を育むうえで、より豊かな学びの機会を提供でき、地域への帰属意識を高めることができる。
- ニュースポーツの特性を活かすことで、高齢者も子どもたちも元気に活動することができ、同じ地域の一員として対等な関係で交流を図ることができる。

3 モデルプログラム

(1) 目的

- 地域の中学生や日頃地域に関わることの少ない親世代（父親）などがつなぎ役となり、三世代交流の体験活動をととして、自己有用感を高め、地域への愛着を深める機会とする。（人材育成）
- 子どもたちと地域住民等の交流をととして、高齢者が子どもたちに寄り添い、活躍できる場を設定することにより、生きがいづくりにつなげる。（地域の活性化）

(2) 対象者

小学生，中学生，
地域の方，高齢者

(3) 計画

	学習内容・活動	学習形態	時間	講師等
体験活動 1	「三世代交流体験活動」 地域のつながりづくりのきっかけとなる 三世代交流の体験活動	体験活動 ・グループ	2時間	専門的な知識や 資格を有してい る者
体験活動 2	「地域みんなとつながろう」 地域と関わるのが少ない親世代に参加を促し、 地域のつなぎ役としてのきっかけづくりとなる 体験活動	体験活動及び 座談会	2～3時間	地域での活動に取り 組んでいる団体

実施にあたって（工夫点，注意点）

- ★事前に実行委員会等の打合せを行い，ねらいについて共通理解を図るようにしましょう。
- ★活動を楽しむだけでなく，地域の子どもたちから高齢者までが，つながることができるきっかけづくりを工夫しましょう。

(4) 展開例

第1回「三世代交流体験活動 ～ニュースポーツ体験教室～」

学習のねらい

ニュースポーツをととして三世代が活動し、地域のつながりのきっかけづくりとする。

	内容	出席者	留意点
第1回 実行委員会	・三世代が一緒に楽しめる種目を選定する。 ・会場の確認や役割分担等について打合せを行う。	(実行委員) ・日曜子ども教室スタッフ ・PTA役員 ・部会員(地域学校協働活動推進員、小・中学校教頭、市生涯学習課職員等) (講師)レクリエーション講師	・つなぎ役を検討する。 ・参加者や会場の実態を考慮して、種目を選ぶ。
第2回 実行委員会	・中学生とグループリーダーとしての配慮事項について確認する。 ・リハーサルを行い、ルールその他、場づくりや道具の扱い方を確認する。	(実行委員) ・日曜子ども教室スタッフ ・PTA役員 ・部会員 (講師)レクリエーション講師 (協力)地域の中学生	・活動のねらいをおさえる。 ・中学生にリーダーとしての自覚を促す。 ・活動のリハーサルを行い、当日自信をもって取り組めるようにする。 ・意見交換や質疑応答の場を丁寧に扱うようにする。

時間	学習の流れ	留意点	準備物
受付後	【準備】 ・チームの決定	・各チームに三世代が入るようにチーム編成を工夫する。	
30分	【練習】 ・種目ごとに、講師よりルール説明を聞き、練習を行う。 ・オーバルボール ・競技輪投げ ・ラダーゲッター	* ポイント * ・中学生には、チームリーダーとしてメンバーへの積極的な声かけを促し、意欲を高めましょう。 ・小学校低学年向けに表示等を配慮する。	・各種目の用具 ・記録表 (記入用・掲示用)
75分	【体験】 ・3種目をA～Iのチームがローテーションしながら対戦する。 (25分×3回)	・チームのメンバー同士でアドバイスをしたり、応援したりするよう促す。 ・時間に余裕ができた場合の対応として、種目を予備に用意しておく。 (今回はユニカール)	
			
5分	【感想発表と振り返り】 ・体験の結果発表 ・感想発表 ・記念撮影	〈達成のイメージ〉 ・中学生がリーダーとして活躍することによって、参加者が地域のよさに気づく。 ・点数だけでなく、つながりづくりに貢献している姿を紹介する。	



ちょっと気になる 言葉の解説



インプロとは？

Improvisation(インプロヴィゼーション)の略。日本語では「即興」という意味です。

演劇・音楽・アートなど芸術分野における表現手法のひとつで、台本なしで「その場で創作する」ことで、思考と創作が同時に行われます。

インプロはもともと俳優のトレーニングとして開発されたものですが、現在ではエンターテインメントとして教育のツールとしても活用されています。そこで、講座を展開する上で、一人一人の意見を話し合う機会として、活用することができるでしょう。



障害者差別解消法とは？

国連の「障害者の権利に関する条約」の締結に向けた国内法制度の整備の一環として、平成25年6月、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（いわゆる「障害者差別解消法」）が制定され、平成28年4月1日から施行されました。

この法律の目的は、全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向け、障害を理由とする差別の解消を推進することです。

※詳細については、内閣府のHP(www8.cao.go.jp)を参照してください。



子供会，ジュニアリーダー， 高校生会とは？

1 子供会とは？

就学前の幼児から高校3年生相当までを構成員とした異年齢の集団です。

仲間と活動を共有することによって、個や集団の望ましい成長を意図したコミュニティ活動です。地域を基盤とし、仲間集団のもつ形成力と、活動（経験）を通しての成長を統合し、よりたくましい子どもや、集団を実現しようとする活動でもあります。

子どもの発達にとって不可欠な経験を与えることを目的としており、家庭・学校はもとより、地域の諸機関・諸集団と強い連携を保ちながら、活動を進めていくことが大切です。

2 ジュニアリーダーとは？

子どもたちへの指導者・助言の内容、子供会活動の中で担う責任の範囲、状況を判断する力量などからみて中学生、高校生（同年齢相当の者）をいいます。

なお、ジュニアリーダーは、他の指導者や育成者の補助的機能を果たすものではなく、独自の指導的役割をもって子供会活動を導くものです。

その主なものは、次のとおりです。

- ①仲間づくりのよき理解者として、その推進に当たるとともに、自らの成長を図ること
- ②班活動の具体的、実践的な指導に当たり、会員の積極的参加を促進すること
- ③集団指導者の指導のもとに、会長、班長など役員の活動を援助すること

※子供会、ジュニアリーダーの詳細については、公益財団法人全国子ども会連合会HPを参照してください。

3 高校生会とは？

当該市町村在住または当該市町村内の高等学校に通学する高校生によって構成されるボランティア団体です。当該市町村教育委員会等の支援のもと、子供会行事や市町村の主催事業の補助指導者として活動しています。

	就学前	小学生	中学生	高校生
子供会				
ジュニアリーダー				
高校生会				

若者の活動を継続的に支援していくことが、「**地域の人財づくり**」につながります



地域学校協働活動（地域学校協働本部）と学校運営協議会を一体的に推進していくには？

地域学校協働活動を進めるにあたっては、まず関係者によるビジョンや目標の共有を行うことが重要であり、学校運営協議会における協議や熟議等がその役割を果たします。その結果を踏まえ、幅広い地域住民の参画により効果的に地域学校協働活動を行うことにより、子供たちの教育活動の充実や活性化が期待できます。

平成29年3月の地教行法の改正により、学校運営協議会において「学校運営への必要な支援について協議すること」、「学校運営協議会の委員として地域学校協働活動推進員等の学校運営に資する活動を行うものを任命すること」が追加されたことを踏まえ、学校運営協議会と地域学校協働本部が円滑に連携し、両者の機能を効果的に高めていくため、地域学校協働活動推進員が学校運営協議会の委員として学校運営に必要な支援に関する協議に参加するなど、普段からコミュニケーションや情報共有を行うことが重要です。

また、地域学校協働活動が効果的かつ適切に行われているか、活動が学校における教育活動や地域の活性化に資するものとなっているかなど、両者の連携により活動に関する振り返りを行い、次年度の地域学校協働活動に反映させることにより、PDCAサイクルを機能させていくことが重要です。

地域学校協働本部と学校運営協議会は、それぞれが持つ役割を十分に機能させることで両輪としての相乗効果を発揮し、学校運営の改善に結び付けることが期待されます。

※詳細については、文部科学省「コミュニティ・スクール2018～地域とともにある学校づくりを目指して～」を参照してください。

Q&A こんなときどうするの？

Q1

P23

講座を企画する
ときに大事なことは
何だろう？

Q2

P25

講座のアレンジは
できるのかな？

Q3

P26

どうすれば
人が集まるのかな？

Q4

P26

どんなふうに
講師を依頼すれば
いいのかな？

Q5

P27

事業(講座)の
評価は？



Q1

企画をする上で大事なことは何ですか？



講座受講後のゴールのイメージから考え、その目的を達成するために必要な内容を計画していきましょう。

A

どんな人に参加してもらいたいのか、どんな内容で展開するかなど、具体的にイメージできた時が良い企画となるでしょう。

家庭教育・子育て支援のプログラムを参考にして考えてみましょう。(P7 参照)

回数	学習内容・活動	学習形態	時間	講師等
1	世界に一つだけのアクセサリーを作しましょう ・アクセサリー製作 ・子育て支援（コミュニケーションの取り方）	創作活動 ワークショップ	2.5 時間	鍛金作家, 家庭教育ファシリテーター
2	今、聴いておかないと、きっと後悔するスマホの話	講話 ワークショップ	2 時間	メディアリテラシー講師

(茨城県水戸生涯学習センター「公民館・市民センター等の活性化のための支援プログラム」より)

第1回「世界に一つだけのアクセサリーを作しましょう」では、参加者が、きれいなアクセサリーを作ることが目的ではなく、創作活動をととして、参加者同士が気軽に話せる関係づくりに重点を置いています。

今まで参加したことがない保護者に参加してもらおう良い機会となるでしょう。



地域の実態やニーズに合った企画を考えてみましょう。

参加者が、受講する講座にどのようなことを期待しているか、考えてみましょう。専門的な内容であれば良い事業（講座）というわけではありません。

◎専門的な地域等の習得講座……………講演会，研修会

◎参加者同士の対話講座……………ワークショップ

◎参加者同士が活動しながら行う講座……………体験活動 など



分かりやすく、興味を引くような見せ方を工夫しましょう。当事者意識をもって参加できるような学習内容が良いでしょう。

◎講座名の工夫

◎チラシの内容と配布の仕方の工夫

◎対象に合わせた広報の工夫



参加型のワークショップ等を活用することで、より深い学びが期待できます。

あくまでも手法ですので、ワークショップを行えば、良い講座になるというわけではありません。ねらいに近づけるために必要であるか検討することも大切です。

【参考】参加型ワークショップ例

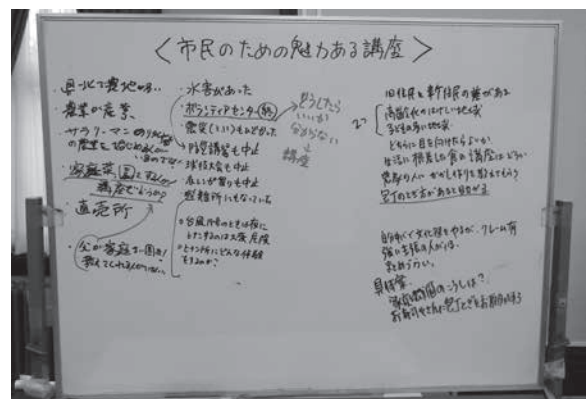
●円形ダンボールの活用によるワークショップ

- ・円形になることで、参加者に一体感が生まれる。
(4～6人グループが最適)
- ・輪になって座るため、参加者同士が序列のない対等な関係をつくりやすい。
- ・膝の上に乗せて使用することができる。
- ・ホワイトボードであるため、書いたり、消したり、付箋を貼ったりすることができる。



●ホワイトボードを活用したミーティング（ワークショップ）

- ・話し合いを可視化するために効果的。企画時に適している。
- ①意見を出し合う。もともになる意見を黒色で記述し、情報を共有する。
- ②出された意見を方向付ける。赤色で重要なポイントを押さえる。
- ③具体的な行動や活動計画を決める。青色で整理していく。



そのほかにもたくさんの手法があります。講座の内容によって工夫することが大切です。

Q2

講座のアレンジはどうすればいいですか？



このモデルプログラムを全て実施しなければ効果がないというわけではありません。地域の実態や予算、スケジュールに合わせた講座を行うことが適切です。



【例】

- ◆モデルプログラム講座の中から、市町村の現状等に応じて必要な回数に変更して実施するのも可能です。（大洗町 6 回実施→茨城町 3 回実施）
- ◆予算を抑えたい場合は、行政や公共施設の方を講師に招聘し、ワークショップ等を担当職員（社会教育主事等）が行うこともできます。
- ◆モデルプログラムをもとに、一部分の講座を新たに企画することも可能です。

アレンジが難しい場合や、地域の実態に応じて新たな企画で行いたい場合は、茨城県水戸生涯学習センターに相談してみましょう。

テーマ	プログラム名	H29	H30
		大洗町	茨城町
		1 親子の絆を深めよう！ ～野外炊さん・プロジェクトアドベンチャーから見つけ出す（親子講座）	※ 6 回講座のうち 3 講座を実施
家庭教育/ 子育て支援	育てよう！公民館 で親力アップ ～家庭の教育力を 高めるために～	1 アクセサリー製作及び子育て支援 （コミュニケーションの取り方） 「世界に一つだけのアクセサリーを作りましょう」	1 アクセサリー製作及び子育て支援 （コミュニケーションの取り方） 「世界に一つだけのアクセサリーを作りましょう」
		2 家庭教育に関する講話・ワークショップ 「今、聴いておかないと、きっと後悔するスマホの話」	2 家庭教育に関する講話・ワークショップ 「今、聴いておかないと、きっと後悔するスマホの話」
		3 家庭教育に関する講座 （子どもへの言葉遣い、接し方） 「子育てがもっと楽しくなる魔法の方法」	3 家庭教育に関する講座 （子どもへの言葉遣い、接し方） 「子育てがもっと楽しくなる魔法の方法」
		4 家庭教育に関する講話・ワークショップ 「自らを信じる『力』」	
		5 ワークショップ（インプロワーク） 「童心に返って遊びましょう」～子どもとのコミュニケーションUPをめざして！～	

（茨城県水戸生涯学習センター「公民館・市民センター等の活性化のための支援プログラム」より）

Q3 どのようにすればたくさんの方が集まりますか？

A



講座を実施する際に、

- ①参加してほしい人はどんな人たちなのか、対象をしっかりと押さえておきましょう。

講師の方にとっては、対象者を絞り込んでいる方が、内容を深めることができ、参加者の満足度も高くなります。また、幅広い対象の場合は、意識啓発のような内容が適しています。



- ②参加しやすい環境を整えましょう。

実施時期や時間帯、会場、駐車場、託児など、一工夫することで、参加しやすくなります。



- ③対象となる人たちにスムーズに情報が届くよう広報しましょう。

若い世代の人たちには、チラシ配布だけでなく、SNS上で広報すると効果的でしょう。



- ④講座の中に楽しみながら学べる内容や、生活に即役立つような内容、親子や家族で参加できる内容などを盛り込み、満足度を高める工夫も必要です。

Q4 講師の依頼は どうすればいいですか？

A

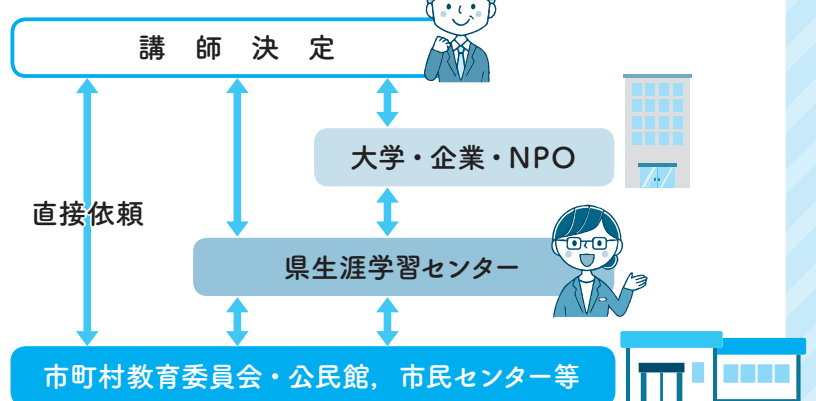


講座の内容に応じた講師を選定することで、参加者の学習が深まり、満足度も高まります。

- ◎専門家
(大学等の学識経験者、教員等)
- ◎地域人材
(行政・公共施設、NPO団体、
企業、ボランティア等)

講師の情報等が少ない場合は、
県生涯学習センターに相談をして
みましょう。

【講師依頼の流れ】



Q5 実施した講座の満足度などは、 どのように捉えればいいですか？



事後のアンケート調査は、必要な項目を柱立てし、それぞれ選択肢によって回答できるようにすると、集計やデータの比較が容易になります。

A

その他などは、短い文章で記入できるようにし、最後に自由記述欄を設けましょう。
プラスの回答だけでなく、少数のマイナスの意見も事業に役立つこともありますので、押さえておきたいところです。



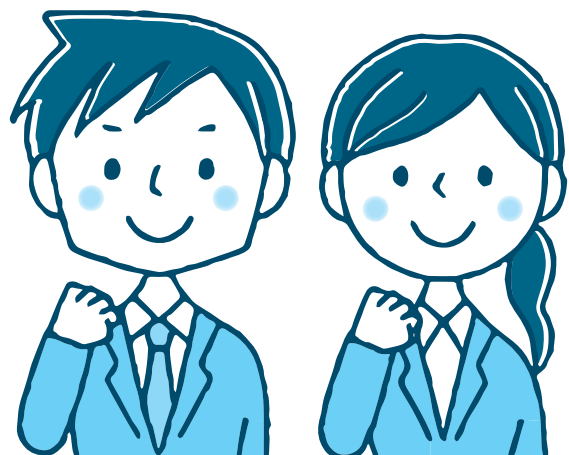
また、講座中の参加者の表情を観察したり、講座修了後に参加者の声を聞き取りしたりすることも大切です。

さらに、事業を総合的に評価してみましょう。

- ①効率性……コスト改善の余地はあるか
- ②妥当性……対象・手段等は妥当か
- ③成果……意図した成果が上がっているか
- ④満足度……参加者の反応はどうか

併せて、今後の方向性を考えましょう。

事業(講座)を実施するための、
ほかの疑問があった場合には、
茨城県水戸生涯学習センターへ
お問い合わせください。



令和元年度 指定事業 調査研究・学習プログラム開発・普及事業
「いばらき地域応援プログラム」作成に係る委員及び部員一覧

【調査研究, 学習プログラム開発・普及委員会】

	氏 名	所属・役職	担 当
1	伊藤真木子	青山学院大学 コミュニティ人間科学部 コミュニティ人間科学科 准教授	委員長
2	松橋 義樹	常磐大学 人間科学部 教育学科 助教	副委員長
3	國府田 大	文部科学省 国立教育政策研究所 社会教育実践研究センター 専門調査員	副委員長
4	小林 博	茨城町教育委員会 生涯学習課 社会教育主事	
5	大内 伸二	東海村教育委員会 中央公民館 館長	
6	松崎 英政	茨城県水戸教育事務所 学校教育課 主任社会教育主事	
7	若山 隆男	茨城県県南教育事務所 学校教育課 主任社会教育主事	
8	高森 志保	牛久市教育委員会 生涯学習課 社会教育主事	
9	植野 健一	ひたちなか市教育委員会 青少年課 副参事	

【調査・提供部会】

	氏 名	所属・役職	担 当
1	松橋 義樹	常磐大学 人間科学部 教育学科 助教	部会長
2	志摩 邦雄	茨城県県北生涯学習センター センター長	
3	羽鳥 公寿	茨城県鹿行生涯学習センター 社会教育主事	
4	廣木 悠介	茨城県県南生涯学習センター 社会教育推進員	
5	栗原 香美	茨城県県西生涯学習センター 企画グループ	
6	小林 博	茨城町教育委員会 生涯学習課 社会教育主事	

【事務局】

	氏 名	所属・役職
1	小沼 公道	茨城県水戸生涯学習センター 所長
2	川村 靖	茨城県水戸生涯学習センター 次長
3	長谷川 馨	茨城県水戸生涯学習センター 副参事兼企画振興課長
4	篠崎 昌子	茨城県水戸生涯学習センター 企画振興課 主任社会教育主事
5	小堀 隆弘	茨城県水戸生涯学習センター 企画振興課 社会教育主事
6	佐藤 竜也	茨城県水戸生涯学習センター 企画振興課 社会教育主事
7	筒井 直子	茨城県水戸生涯学習センター 企画振興課 社会教育主事

令和元年度 指定事業「調査研究・学習プログラム開発・普及事業」

『いばらき地域応援プログラム』

編集
発行

公益財団法人茨城県教育財団 茨城県水戸生涯学習センター

令和2年3月発行

〒310-0011 茨城県水戸市三の丸1-5-38 茨城県三の丸庁舎3階 Tel.029-228-1313 Fax.029-228-1633

URL <http://www.mito.gakusyu.ibk.ed.jp/>

Facebook <https://www.facebook.com.mitoshougai/>

E-mail lifelong@mito.gakusyu.ibk.ed.jp

Twitter <https://twitter.com/mitoshougai/>